

震災を語り継ぐ

コンセントの向こう側

2011年3月11日の東日本大震災発災から13年余り。復興の名の下で作られた新しい街の風景が記憶に上書きされ、原発事故があった地では、復興の終わりの見えない日々が今も続いています。また、「3・11を知らない人たち」への、震災から学んだ教訓の継承が重要な課題となっています。

本プロジェクトでは、福島とその周辺を中心に災害と人間について考える現地フィールドワークを行い、今年度も多くの方々に「小さな物語」をお聞きするとともに、震災の記憶を後世に伝えようと造られた施設を数か所訪れました。シンポジウムでは、その一つ「おれたちの伝承館」館長で写真家の中筋純氏に「写真が持つ記録性の力～13年たった今、災厄をどう伝えるか～」と題してご講演いただきます。また、現地を訪れた院生の報告、高校生たちの活動報告、さまざまな立場から「語り継ぐ」ための活動を展開している方がたにもご発言いただきます。

併せて、大阪いばらきキャンパス（OIC）ライブラリー展示室では中筋氏の写真展「コンセントの向こう側～無人化した街々の静かなメッセージ～」が開催されます（2024年12月8日～2025年1月5日）。この機会にぜひご覧ください。

※プログラム、講演者プロフィールなど詳細につきましては裏面をご覧ください。

【日 時】2024. **12/8** 【日】

13:00-16:20（予定） 開場12:45

【会 場】立命館大学大阪いばらきキャンパス（OIC）
C棟2階271教室

会場収容人数：30名まで

※発表する院生、講演者は会場より発言します。

・メールから

ejfspj2011@gmail.com

*件名「2024シンポジウム参加」

*本文に以下①～⑤をご記入願います。

①お名前

②メールアドレス

③属性（学生、院生、会社員など）

④参加形式 対面またはオンライン

⑤お住まいの都道府県名

⑥緊急時の連絡先

・QRコードから



締切：12月1日（日）



中筋 純 写真展

コンセントの向こう側 ～無人化した街々の静かなメッセージ～

【会期】2024年12月8日（日）～2025年1月5日（日）

【会場】OICライブラリー展示室

※会期中の図書館開館日程はこちらから →



～プログラム～

13:00～

開会
研究科長あいさつ 矢藤 優子 (立命館大学大学院人間科学研究科長)

プロジェクト概要と企画趣旨 村本 邦子 (プロジェクトリーダー/人間科学研究科 教授)

第1部 活動と学びの報告

進行: 村本 邦子

- ・ 院生報告 2024年度プロジェクト概要の紹介
- ・ 高校生たちの活動報告(ビデオでの報告)
自由の森学園高等学校選択講座「東北と復興」メンバーの高校生と
内田 一樹氏 (立命館大学大学院人間科学研究科博士後期課程、自由の森学園中学高等学校 社会科教諭)

休憩

14:30～

第2部 講演

進行: 参加院生メンバー

「写真が持つ記録性の力～13年たった今、災厄をどう伝えるか～」

講師: 中筋 純氏 (おれたちの伝承館館長・写真家)

プロフィール

1966年生まれ。東京外国語大学中国語学科卒。商業撮影の傍ら、廃墟/産業遺構の撮影を継続。2007年よりチェルノブイリ原発のその後を記録。3.11後は福島原発被災地に通う。2016年より両地の写真を組み合わせた写真展を全国で巡回。2019年より福島関連の表現を続けるアーティストたちのコラボレーション展「もやい展」を主催。【著書】『廃墟チェルノブイリ』『チェルノブイリ春』『流転チェルノブイリ2007-2014』(二見書房)、『流転 緑の廃墟』(アスペクト)、『かさぶた福島The Silent Views』(東邦出版)など写真集や著書多数

休憩

15:40～

第3部 「語り継ぐ」ためのさまざまな活動

進行: 参加院生メンバー

- ・ 現地の皆様からの報告
福島県 白河市 小磯 厚子氏 (NPO法人しらかわ市民活動支援会 おひさまひろば 副代表)
宮城県 多賀城市 丸山 隆氏 (多賀城市教育委員会生涯学習課 副主幹)
多賀城市 黒川 恵子氏 (おおぞら保育園 園長)
仙台市 加藤 恵子氏 (みやぎ民話の会 会員)

交流会 全体の意見交換

(終了予定16:20)